
長野高専後援会

長野支部だより

発行責任者:支部長 関野 愛

編集: 編集委員会

2025年3月12日



学年別懇談会開催

2月15日(土)午後1時30分よりホテルメトロポリタン長野において、令和6年度学年別懇談会が開催されました。長野支部に加え「飯水岳北支部」及び「須高支部」からの参加者を含め69名の会員が出席しました。来賓の濱口直樹副校長・渡辺誠一副校長から学校情報をご紹介いただいた後、学年別の懇談が行われました。

懇談会では保護者からの質問に各学年担当の先生方から丁寧にご説明をいただきました。懇談会後は同会場において懇親会が開催され、先生方7名を含む57名が参加し楽しいひと時を共にしました。

学校情報

濱口直樹 副校長



日頃より長野高専の教育につきまして多大なるご支援ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。学校の様子についてご説明、ご報告をさせていただきたいと思えます。

学校行事

今年度の入学式はコロナ前同様、ほぼ通常通りの形式で執り行われました。コロナを機会にオンラインが活用されるようになり、始業式についてはホームルームにオンライン配信の形で行っております。

TOEICにつきましては後援会の多大なるご支援を頂き実施しております。

1年生は入学したばかり、3年生はクラス替えを行うタイミングで親睦を深める目的で特別研修を行っています。前期の授業公開ではコロナを乗り越えた後の通常の授業公開となり、高学年の保護者にも多く来て頂き、383名が来校されました。

校内学習塾では前期の中間試験でどうも勉強の仕方がわからないといった学生がいるため、上級生がTAとなりテスト前の3週間、週に2日程度を使い勉強の仕方を教える機会ともなっています。

工嶺祭一般公開は10月19日と20日に開催され、保護者懇談会も実施されました。

後期授業公開期間の最終日の11月4日には、中学生を対象としたキャンパスツアーを実施しました。海外研修旅行として2年生は11月に台湾へ行ってきました。この時期に3年生は日帰りで2日間の企業現場見学、4年生は泊まりで2泊3日の企業現場見学へ行ってきました。また、1年生と5年生は交流会を実施しました。

1月23日には、今年度初めての試みとして、5年生と専攻科生の研究発表会を全学年の行事として開催しました。200名以上の発表者が10の会場に分かれ、発表会場に入れない低学年はオンラインの配信が見られるようにしました。

工学科の再編について

令和4年度より工学科に再編され、3年が経過しました。

1年生ではどの分野でも必要な基礎的な内容を学び、2年生から3つの系に分かれて学んでいきます。1年生のうちに何度かの希望調査やアンケートを実施しますが、毎年50名ほどが入学時から希望する系を変更しています。

リベラルアーツ教育では、1年生においてZukudaseゼミという少人数のグループでテーマに取り組む演習科目を実施しています。2年生では、少人数の英会話2講座と、英語で書かれた数学の問題を解く演習1講座に分かれて行う授業もあります。来年度からは、人文社会系の選択科目として4年生の長野学が始まります。

専門科目でも、来年度から副専攻として、自分が進んだ主専攻とは別の系・コースの科目が準備され、4年生が選択して学んでいきます。例えば、IE系の学生が環境防災学を選択するなど、自分の主専攻とする分野を超えた幅広い知識を得られるようなカリキュラムとなっています。

エンジニアリングデザイン科目では、2年生での入門編として、学生たちが自ら課題を見つけて解決するプロセスを学び、4年生から始める実践編では、技術振興会や行政機関からもテーマを募集するなど、学外連携コースも設定して課題解決に向けたプロセスを学んでいきます。4年生は、1年間を通して全クラス同じ時間に設定されるこの授業で、複数の系の学生がチームを作り学んでいくこととなります。

渡辺誠一 副校長



昨年7月に行われた支部総会でも学校の様子をお話ししましたので、本日は8月以降の様子をお伝えします。

学校の様子

学生会活動では、8月8日に学生食堂でかき氷と綿あめの配布を行い好評でした。10月18日（金）から21日（月）にかけて工嶺祭が行われました。守谷商会様にもお手伝いいただき、正門に立派なアーチができました。

本校では5月のクラスマッチと10月の体育祭がありました。体育祭では”ガチ種目”と呼ばれるサッカー、バスケットボール、バレーボールの競技種目と”お楽しみ種目”が半々で行いました。5月のクラスマッチではクラスごとに応援旗を作ったのですが、体育祭ではクラスTシャツも作ることで、クラスの団結も深まったようです。

一般公開の2日目になりますが、「空飛ぶランタン」が行われました。ランタンは、LEDを入れた風船にヘリウムガスを入れて膨らませて飛ばすものなのですが、小学生や地元の方にお越しいただき、ワークショップでランタンを作成してもらいました。当日は雨天だったこともあり、体育館の中で飛ばしました。



クラス展示では、25クラスの企画書を技術振興会会員様にお示して「何かお手伝いいただけるものはありませんか。」という形で募集をし、企業とのコラボ展示も行われました。学校長賞に選ばれた2年3組では、スプーンに玉を載せていろいろなアトラクションを回り、クリアする時間を計測してランキングを決める企画でした。「エアホッケー」を企画したクラスは小学生にも大好評でした。

信濃毎日新聞の1面を飾った環境都市工学科5年生と建設関連企業の協力で作成された、竹のオブジェ「Take your Time」は、多くの方に観に来ていただきました。



電子情報工学科5年生はUnityと呼ばれるプログラム開発環境を使い作成したゲームで、複数台のパソコンで同時にゲームができるようにしました。こちらも小学生に大好評でした。

12月には、佐久市にある檜山工業様に資材をご提供いただき、前庭にイルミネーションを設置しました。年々華やかになってきており、午後8時ころまで点灯し地域の方にも楽しんでいただきました。

課外活動について

運動部では高体連の大会に出場できる団体も多くあります。また、本年度は全国高専体育大会が北海道で開催されました。後援会から交通費と宿泊費を補助いただきありがとうございました。来年

度は九州・沖縄地区開催ということで、2年連続でご支援いただきたいと考えておりますので引き続きよろしくお願いいたします。

全国高専大会では、陸上競技は男子総合3位、女子総合5位、水泳競技は男子100m平泳ぎ3位、テニス競技は男子団体3位、バドミントン競技は女子団体3位になりました。団体競技で上位に入ることは大変喜ばしいことです。1年生では、スピードスケートとクロスカントリースキーでインターハイに2名出場しました。スキーだと飯山高校などが有名ですが、来年も是非頑張ってもらいたいと思います。

文化部では、エコノパワー部が1Lのガソリンでどれだけ走れるか競うHondaエコマイレッジチャレンジ全国大会の2部門で優勝しました。ロボコン部は、高専ロボコン関東甲信越地区大会に2チーム出場し、いずれも敗退しましたが、Aチームが全国大会のエキシビジョンに出場しました。合唱部は人数が少ないので市立長野高校、長野東高校と合同でNHK音楽コンクールの県大会に出場し、銅賞を獲得しました。囲碁将棋部は、全国高専大会の団体戦で優勝と女子個人戦で優勝、県高校将棋選手権で優勝、高校将棋竜王戦県大会で優勝、高校囲碁選手権大会で優勝し、全国大会へ出場しました。

高専生のモラルについて

工嶺祭頃に、高専生のモラルが問われる近隣からの苦情がいくつかありました。

高専の東側にある「原池」という池で学生が騒いでいると苦情がありましたが、地区の方から「立入禁止」と「釣り禁止」という掲示が出されました。

武道館と住宅街の間にある道路で夜、3人の学生が無灯火で自転車を運転したとして、巡回中の警察官に自転車指導警告カード(イエローカード)を切られるということがありました。

テニスコートの西にあるフェンスを乗り越えて、石原田公園に行った学生がいるという情報提供がありました。本校側のフェンスは若干傾いているので、よじ登らないよう指導しています。

学生たちには、近隣の方に迷惑をかけないようにしっかりしてもらいたいものです。

進学・就職状況について

本年度5年生の進路についてですが、就職の内定率97.9%、進学決定率は96.0%となっています。専攻科生は就職も進学も100%が決まっています。(学年別懇談会開催時点)

本年度の特徴としては、例年だと7月末には就職内定率が9割を超えるところ、今年は9月末にずれ込みました。要因としましては、進学から就職に切り替えた学生が11人ほどいたことと、就職活動を継続している学生が若干いたことが考えられます。

進学については、学校推薦での合格は順調でしたが、一般選抜では受験延べ人数の5割程度の合格率と低調でした。難関大学を受験する学生が少なく、受験した学生も合格者が少なかったというところが今年の特徴になります。

就職についてですが、県外での就職が圧倒的に多く、特に関東が多くなっています。県内では東信地域が多くなっています。長野県職員採用試験で専攻科生を含めて7人合格したことが特徴的なことになっています。

保護者の皆様へのお願い

来年度から自転車通学でヘルメット着用を義務付ける予定でおります。本校では、大事には至ってありませんが、自転車事故が月に2件ほど発生しております。

ヘルメット着用率が全国1位(69.3%)の愛媛県では、2015年から公立高校は義務化、2018年から私立高校でも義務化、新居浜高専でも義務化としていることから、本校も義務化することにしました。ヘルメット購入の費用はかかりますが、学生の命が一番大事ですので、ご理解お願いいたします。

奨学支援制度、編入学・進学セミナー、長野県就活ナビ、マイナビについてもリンクをご用意していますので、1年から4年の保護者の方も是非一度、目を通しておいってください。

[奨学支援制度](#)

[ヘルメット購入補助金](#)

[編入学・進学セミナー](#)

[長野県就活ナビ](#)

[マイナビ](#)

学年別懇談会



1学年 児玉英樹 先生



1年生の皆さんは長野高専に入学してから1年経ちましたが、多くの学生が同じ悩みや問題を抱えている場合もあるかと思えます。学生たちはちょうど今、4回目の定期テスト期間中ですが、今まで

の3回、さらには今受けている4回目の試験において「やらかしちゃった」と感じている学生がいるかもしれません。私が受け持つ5組の学生に対しては、場合によって、教科担当の先生から「点数足りないからもう少し勉強してきなさい」「〇〇日までにこの課題をやっけきなさい」という指示が、試験が終わった後の特別編成授業期間に出されるかもしれません。A教科担当の先生は、良かれと思って課題を出しますが、やらかしちゃった科目が多い学生は、B教科からも、C教科からも課題が出されるかもしれません。そうすると試験明けの数日間は、毎晩徹夜かも、と5組の学生には伝えています。

定期試験やその後の再試験が終われば、長い春休みになります。保護者の方々にはお子様のフォローをお願いしたいと思います。

これまでの1年間は月曜日の午前中に「ものづくり基礎工学」という授業を全員一緒に受けてきました。2年生になるとIE系、MR系、CE系の3コースに分かれ、それぞれ勉学に励んでもらうことになります。また、2年生は台湾への研修旅行も予定されています。

保護者から

Q 就職で学校推薦を受ける場合、同じ会社に複数名の希望者がいたらどうなりますか。

A 同一の職場への推薦希望者が複数名いた場合、成績を参考にしながら上位1人に絞るケースと、複数名推薦して企業側で選考するケースがあります。「学科」制から「系」になったので、今後の対応は変わる可能性もあります。また、推薦については1人1社のみとなり、企業から内定がでたら必ずその企業に入社する必要があります。

Q 3年生から大学進学と5年生から大学編入では、どちらの方が多いですか。

A 5年生からの大学編入が圧倒的に多いです。高専の教育システムでは、いわゆる受験勉強をさせていませんので3年生からの大学進学は難しい場合が多いです。余談ですが、最近では、高専の教育システムが評価され、教育システムそのものを海外に輸出するようになってきています。モンゴルや東南アジアにも「KOSEN」ができてきていて、中学を出た後5年間、受験勉強をする必要が無く、しかも専門知識を身に付けることができる点を高く評価されています。国立高専の教員が現地に行き「KOSEN」の立ち上げに関わっています。

Q 普段のテストの成績をしっかりと修めていけば進級には影響はないでしょうか。

A テストの成績に問題無ければ、進級に影響はありません。

Q 高専は休みが長く子供が遊んでしまうので苦慮しています。

A 大学と同じで前期15週、後期15週、合計30週で1年が終わるので、高校などに比べると休みが長いです。

そんな高専においては、自分を律する、コントロールする「自律」が重要だと、5組の学生にはしつこいほど伝えています。休み中はもちろん、普段の生活の中でもこれできていないと手遅れになります。高校ではあまり聞かない「留年」というハードルも、自律していないと超えることができません。自らを律し、ハードルを越えていけば、進学にしても就職にしても希望は叶っていきます。きっと家庭での教育がしっかりされているので、わきまえた行動をしてくれる学生は多いです。

Q アルバイトについて教えてください。

A 3年生以下は、長期休業中のみアルバイトが認められています。許可制ということではなく、アルバイトを希望する学生が学校に届け出ることでやってもらっています。4-5年生は、平日でもアルバイトができます。専攻科生は大学生と一緒に自己責任で、というルールになっています。ただし、居酒屋等の酒類提供店でのアルバイトは認められていません。

Q 1年生なので就職か進学かまだ決めていないのですが、仕事に繋がる考え方を身に付けてもらいたいと考えています。企業と学校をつなぐ場があると工嶺祭で聞いたのですが、1年生にもそのような場を与えてもらいたいと思います。

A 地元企業と共同研究などを行う地域共同テクノセンターのことだと思います。長野高専は、お陰様で中小企業等と太いパイプがあります。

また、大学の推薦で言えば、1年生からの成績を見ることになっていますので、希望通りの進路に進みたい場合は、1年次からしっかり勉強しておかないと後悔しますよ、と学生たちに伝えています。

4年向けのセミナーの中には、1-2年生も参加できるものもあり、学生たちにはメールで案内がされています。ご家庭においても、進学する場合でも1年の成績が関係することを伝えていただき、お子さんのやる気を出させていただきたいと思います。

Q 留学について教えてください。

A 本校は国際化にも力を入れています。長期休業中に短期留学する学生や、1年間休学して長期留学する学生もいます。留学については、学生課から学生あてにメールで案内が出されています。短期留学した先輩から、どこの国に何週間行ってどうだったか、留学に向けてどのような勉強をしたかなどを聴く機会(1学年集会)を先日設けました。長野高専では保護者向けの情報提供が足りていない印象があり、申し訳なく思っていますが、学生には案内のメールを送っています。また、高専の中でも豊田高専はかなり留学に力を入れているようです。

Q 大学進学を希望しているのですが、大学卒業での就職と高専卒業での就職どちらが良いか悩むところですが、いかがでしょうか。

A お陰様で、長野高専の求人倍率がとても高い、という点と、進学した場合にどうなのかという点を比較して悩む学生が多いのだと思います。進学の場合で、単位の読み替えがうまくいかない大学を選ぶと、進学した後の授業が忙しいようです。また、就職活動もすぐに始まることになるので、大学院まで進むことをある程度視野に入れながら進学を選ぶ学生が多い印象です。また、専攻科から大学院に進学する学生もいます。

Q 大学院まで進みたいと考えているのですが、外国の大学で勉強したいと考えている場合はどうすれば良いですか。

A 海外の大学に編入した実績はありませんが、海外の大学への進学を希望する場合は、受験していただくことになります。

台湾では半導体の企業が多く、台湾の大学で日本の高専生を受け入れるための専用のコースを作ったと聞いています。今後そのような制度を利用し高専卒業後に編入するケースも出てくるかと思います。

Q 留学生のホームステイを受け入れたいと子供が言うのですが、ホームステイを受け入れているご家庭は多いのでしょうか。

A 学生だけでなく教職員にも呼び掛けていますが、ホームステイの受け入れ先探しに苦慮する場合がございます。学生さんにそういう気持があるということはありがたいことですので、学生課にお問い合わせいただきたい。

Q 大学3年に編入した場合、大学1年から上がってきた学生との学力差はどのくらいあるのですか。

A 私が、大学に進学した卒業生から聞いたエピソードは、「分からないことは、高専から編入してきた○○さんに聞きなさい。」と大学の先生からいわれた、とのことでした。高専は1年から40人の学生を手取り足取り教育し、工場実習では5, 6人のグループに1人教員がつくなど手厚い指導を行っています。その結果だと思えます。

ただ、先ほど述べた通り、単位の読み替えがうまくいかないと、他のクラスメイトと比較した時に、授業が忙しいと話している卒業生もいました。

Q テストで基準点に足りなかった際の対応はどうなりますか。

A 前期の成績はご家庭にお届け済みで、後期の成績はこれから出てきます。

(前期の成績 + 後期の成績) ÷ 2 = 学年末の最終成績

学年末の最終成績が60点未満だと進級できません。そのような場合再試験があります。

今年は、3月6日～7日に予定されていますが、ここで60点以上取れれば進級できますが59点以下だと留年となってしまいますが、該当が一科目だけであれば仮進級が認められています。

2学年 井浦 徹 先生



2年生の台湾研修は、語学力向上など学生にとって本当に貴重な経験になったと思います。保護者の皆様には経済的なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。文化祭では、学生たちが自主的に企画・準備・実行し、その自主性に本当に感銘を受けました。私は体育の授業を担当していますが、リーダーシップとフォロワーシップの育成を目標に、学生が主体的に授業を行う形式を取り入れています。これまでの知識偏重の教育から脱却し、社会で本当に活かせる能力を育成していきたいと考えています。

高専は進学・就職の両面で本当に有利であり、幅広い選択肢があります。しかし、高専ブランドにあぐらをかき、目標設定を怠ると、進路選択で苦勞する可能性もあることも忘れないでください。今後は保護者の皆様にも、より情報が伝わるように努め、学校全体で学生の進路をサポートしていきたいと考えています。

保護者から

Q 5年生の卒業研究発表会に2年生も積極的に参加させることはできないでしょうか。

A 学校側から情報を与えてもピンとこない学生もいるかもしれません。参加を強制するのではなく、興味を持つ学生に焦点を当て、参加を促していきたいと考えています。(教務主事)

Q うちの子どもは、高専に入れば何とかかなという安易な考えを持っているようです。卒業後の進路について、危機感を持たせるためにはどうしたら良いでしょうか。

A 安易に考える学生もいることは承知しています。進学や就職に関する情報提供を強化することで、学生の意識改革を促していきたいと考えています。キャリア教育の充実も重要だと考えています。(教務主事)

Q 就職先に関する情報はどこで確認できますか。どのような学科の卒業生が就職したか等、詳細な情報が欲しいです。

A 就職先情報は本学Webページの「就職・進学」のページで公開されています。春頃に詳細情報が発表される予定ですのでそちらをご覧くださいと思います。より詳細な情報が保護者の皆様にも伝わるように情報提供方法も含めて検討を進めていきたいと思っています。

Q 飛び級制度はないのでしょうか。優秀な学生は早く卒業できるようにすると卒業研究発表や高学年の活動に興味を持つかもしれません。

A 飛び級制度はありませんが、他の高専では留年時に先取履修できる制度を導入しているところもあるようです。(教務主事)

Q 高専での活動や進路に関する情報を、保護者にも共有してほしいです。

A 情報を保護者の方々にもお伝えできるように工夫し、親子で情報共有できる体制を整えていきたいと考えています。

良い学校にするために

井浦先生から「良い学校にするためにはどうするのがよいか」という問いかけがあり、参加した保護者からは下記のような意見が挙がりました。

- 2年生のうちから進路を考えさせるための情報提供を充実させてほしい。5年生の卒業研究発表会に低学年も参加させるなど、より早い段階で進路を意識させる機会を設けられるとよいと思う。
- 高専での活動や進路に関する情報を保護者にも共有し、家庭でも進路について話し合えると思う。
- 就職と進学に対する学生の危機感を高める必要がある。高専に入れば何とかかなと安易に考える学生が多いので、具体的な将来像を描けるような情報提供があるとよいと思う。

-
- 企業によっては高専卒の初任給を大卒と同額に設定するところが出てきている。そういった最新の傾向について随時学生や保護者に情報共有があるとよいと思う。
 - 卒業研究発表会の最後のスライドで、後輩に伝えたいことや在学中にやっておけば良かったことなどを掲載してもらい、低学年の意識向上に繋がれるとよいと思う。
 - 在学中にどのような資格を取るべきかなど具体的な情報が早い段階で提供されるとよいと思う。
 - 保護者が参加できるイベントや説明会が増えると思う。

井浦先生からのコメント

学生たちが「学校が楽しい」「明日も行きたい」と思えるような、活気に満ちた学校にすることが重要だと考えています。そのためには、学生が自分の興味や関心を見つけ、将来の目標を描けるような機会を提供する必要があります。学生への情報伝達を強化するだけでなく、保護者への情報提供も充実させ、学校と家庭が連携して学生の成長をサポートしていく体制を構築していくことができればと思っています。先輩たちが築いてきた高専ブランドを維持し、向上させていくことも大切な観点だと思っていますので、保護者のみなさまにも引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

3学年 北山光也 先生



工学科の1期生として誇りを持って学校生活を送って頂ければと思っています。3学年として行った行事はあまり多くありませんが、DCON起業家による特別講演会、生と性の講習会、エンジニアリングデザイン実践に向けての講演会等を行いました。

各クラスの様子(各クラス担任から)

3IE1 秋山先生

ルーム長、副ルーム長が立候補してくれるなど、積極的な学生が多く、課外活動も活発に参加する学生がいる。

3IE2 富岡先生

元気で明るい雰囲気非常に活発なクラス。課題や試験勉強などにみんなで取り組む姿がある。

3MR1 北山先生

個性ある学生もいるが、全体的に落ち着いた雰囲気のあるクラス。クラス仲は特に問題なくルーム長を中心にやってくれている。

3MR2 柳澤先生

大人しい学生が多い印象のクラス。元気のある学生を中心に比較的良好にまとまっている。まじめな学生が多く、担任の指示はよく理解できている。

3CE 浅野先生

以前と比較して、真面目で大人しい学生が多い。一方で悩みを抱えたり、元気の無さそうな学生もあり、各ご家庭での「見守り」と「寄り添い」に引き続きご協力頂きたい。

進路指導に関する状況・4年生へ向けて

特別研修や企業・現場見学、卒業生・企業の技術者による講演会を実施しました。ホームルームなどの時間を活用して進路について考える機会を設けています。

1) インターンシップ事業

企業説明会が5月にあり、夏季休業中に企業実習が実務訓練の授業としてあります。実務訓練報告会を11月に予定しています。今、学習している事が今後どのように活用されていくか学びます。インターンシップから就職につながる学生も中にはいます。

2) エンジニアリングデザイン実践

4年生では学生自身が社会ニーズを調査し、チームを編成しアイデアを検討して、実際に製品を製作する実習科目であるエンジニアリングデザイン実践の授業があります。異なる系で学ぶ学生がチーム(1チーム5名)を編成して、社会課題に取り組みます。

3) 副専攻科目(3科目6単位以上を習得する)・選択科目について

所属している系以外の専門科目も学びます。進級や卒業要件を満たすような科目選択が必要となるため、選択科目の単位習得には注意して下さい。

4) 進路について

工嶺祭の懇談会までには少なくとも就職希望か進学希望かを決めておいて下さい。就職は来年度3月から採用選考が開始され、進学では推薦が5月から、学力試験は6月から始まります。HP等にアップされている情報を早めに確認して下さい。

高専生活も3年が終わり残り2年ではありますが、進路選択まではあと1年しかありません。学校でもセミナーや説明会などが実施されるので積極的に参加してほしいです。またキャリアコーディネーター(要予約)がいるので、面接練習や企業選択の相談もできます。進路先の研究はもちろん、自分自身を理解する自己分析も大切です。進路選択まではあと1年間しかないため、ご家庭でも進路についてよくお話をして頂き、納得のいく進路選択をしてほしいと思います。

保護者から

Q スーツはいつまでに準備すると良いでしょうか。

A 夏の実務訓練はクールビズ対応できると思いますが、企業・現場見学の11月までに準備して下さい。

Q 4～5年生の授業が大変と聞き心配です。

A 昨年度より選択科目が増えるため負担に感じている学生もいるかもしれません。モデルコースを提示しています。改組前と卒業までに取得しなければならない単位数に変わりありません。

Q インターンシップはどのように決めているのでしょうか。

A 5月に企業説明会が予定されています。長野高専技術振興会に加盟している企業から説明があります。技術振興会に加盟している企業からは例年、募集人数も提示されます。インターンシップを公募している大手の企業もあります。基本的には長野高専の枠でどこかに行くことはできません。人数枠に対して希望人数を超える場合には人数調整します。夏季休業中で自宅から通えるところが基本となりますが、企業によっては寮など使用できる所もあります。実務訓練Aまたは実務訓練Bどちらか1科目を履修してください。中にはキャリア演習、海外研修の科目として、2単位以上取得する学生もいます。

4学年 百瀬成空 先生



進級・卒業を登山に例えるならば4年生は既に頂上を過ぎて下り道に入った段階と言えるでしょう。進級に関しては各自のペースでの行動の積み重ねに任せ、今年は将来の進路を見据えて動き始めてもらえるよう指導して参りました。

夏休みには実務訓練(インターンシップ)を実施し、県内外の多くの企業様にご指導いただきました。またこれに先立ち、マナー講習会や、企業においていただいたのブース形式の説明会なども実施し、学生のメールのやりとりからも見違えるほどの成長を感じています。今年の4年生は行動・レスポンスが早く、実直に取り組むことができる学年だという印象を持っています。

後期には多段にわたって進路セミナーも開催し、徐々に進路の種別、進路希望先、進路決定までの流れを具体的にイメージ化できたと思います。志望理由は進路希望先の情報をどれだけ調べただけではなく、そこに自分の経験・個性を重ね合わせることができれば、説得力のあるマッチングアピールができると思います。

大学に進むのか、就職するのかに関しては、会社の中でどのような立ち位置で仕事をしたいのかが判断材料のひとつになると思います。大学院卒は部署やチームを取りまとめることなどが求められます。待遇も良いですが優秀なメンバーが集まりますので、その中でしのぎを削っていく気概もてるかがポイントになると思います。一方の高専卒は現場で重宝され有りがたられる、いわば「現場の救世主」となるようなパターンが多いと思います。

編入学試験に挑戦するかどうかは、秋から春までに勉強を積み上げ、勉強を継続するペースを作ってこられたかが判断材料になると伝えてきました。とりわけ数学はほとんどの大学での試験科目になりますので、2月までに数学をどれだけ仕上げられたかで、その後の進学準備を有利に進められるかが変わります。

保護者から

Q 親子の間で進路についての話がなかなか進まない。

A 子どもの考えを第一にしてほしいと思いますが、経済的な制約がある場合は率直に話した方が良いでしょう。大学で用意している奨学制度も子どもに調べてもらい検討材料としてもらえればと思います。

Q 進学を希望しているが、大学の選び方は。

A 大学院へ進学することを前提に、どんな研究をしたいのかなど明確な目的が持てる大学をまずは一校選んでもらいたいと思います。そのうえで、その大学と受験日が重ならず、かつ試験科目が多く重なっている大学を2校探し、原則3校併願で受験に挑んでもらえればと思います。首都圏の大学にこだわらず、全国の大学を視野に入れて欲しいと思います。大学選びに妥協したとしても、大学院入試でもう一度目指していた大学に挑戦することもできます。

Q 最近の若者のコミュニケーション不足が目立ように感じる。

A 世代の違いもありますが、特に高専生は恥ずかしがり屋の傾向があるかもしれません。また、話す相手を選んでいる可能性も考えられます。親は立場上、子どもに踏み込んだことを言うため、子どもが話すのを躊躇するパターンに陥りやすいです。子どもが話してくれたことに対して、否定から入らずまずは受け止めてもらえればと思います。また三者面談などの特別な出来事を話題の取っかかりにしてもらえればと思います。

Q 進学、推薦のスケジュールを教えてください。

A 学校からの推薦の可否は4学年の成績確定後に決まります。推薦できる大学は一校のみです。一般入試は他校と併願可能ですが、推薦入学が決まった時点で他の学校への進学はできなくなります。

Q 就職先の企業選びについて教えてください。

A 企業を直接見聞できる、企業の方から直接話を聞く機会が足がかりになると思います。本校でもそのような機会を複数回用意しました。ひとつでも見聞すると、それを基準にして比較検討することができるようになります。見聞した企業が増えると、自分の中で大切にしたいポイントも固まってくると思います。情報を集めるために受け身ではなく能動的に動いてもらいたいと思います。

5学年 山田大将 先生



5年生の最近のイベントとして、1月末に卒業研究の発表会が行われました。昨年度までは一部の学科で2月に実施されていましたが、本年度は全学科が同じ日に発表会を実施しました。

また、学年末試験も終了し、必要な単位を取得し、卒業論文が問題なく通過すれば、晴れて卒業し、次の進路へ進むことができます。

私が担任を務める電子制御工学科では、学年末試験の結果、再試験を受ける必要がある学生が数名おり、3月初旬に再試験が予定されています。選択科目には再試験がないため、試験の成績が基準に満たない場合や、課題の状況によって基準を満たせない場合は、単位を取得できません。

選択科目の多くは学内で開講されていますが、企業・現場見学や実習などに一定の時間以上参加することで単位を取得できる科目もあります。さらに、体験入学や産業フェア等の各種イベントへの参加、海外研修・海外留学を通じて単位を取得することも可能です。

担任として、学生の単位取得状況を常にチェックし、余裕を持って単位を取得するよう指導しています。単位の取得が不安な学生には、状況を確認しながら追加の単位取得を勧めています。

近年ではあまり耳にしませんでしたが、私が学生だった頃には、5年生の学年末に卒業に必要な単位が足りず留年し、すでに内定をもらっていた企業に就職できなくなるケースもありました。その際には、担任と学生が企業に謝罪に行くこともありました。

保護者から

- Q 5年間を通してになります、実際に何か問題があっても子供が親に話すことも少ないというお年頃です。学校からの連絡が親まで届かないことがあります。
- 1年生の頃に登録のあった「さくら連絡網」の利活用を盛んにしていただき、情報発信をお願いしたい。
- A 「さくら連絡網」については、専門科の教員は使い方を理解していないようにも感じます。確認し活用した方が良いと感じました。
- 5年生になると、少し心配事がある学生の場合は個別に保護者へ連絡を取ることもありますが、進路等が順調に決まっている学生に関しては、保護者への連絡を取ることがありません。せっかくこういうシステムがあるので、活用して学年としての現状を色々とお伝えする方が良いと感じています。
- Q 進学して県内での就職を希望する場合は、進学先も県内が有利でしょうか。
- A 教員と企業との繋がりもあるので、県内の企業に就職を希望する場合は県内の大学に進学したほうが有利な場合もあります。
-



後援会長野支部 役員退任の挨拶

長野支部長 関野 愛

コロナ禍で集まることができなかった時から始まり、日常生活が元通りになったかと思えば物価高。悩まされる4年間でした。小・中学校ではPTA解散の話題もあります。

後援会活動も役員の負担が減り、総会・懇談会に会員のみなさんが参加しやすい環境を整えたいと思いつながり活動してきました。今後を見据え、変更させていただくことも多く、皆様にご迷惑をおかけしたこともあったと思いますが、一年間ありがとうございました。

編集委員：山岸 直樹 桂木 大世 倉島 寛 古城 ちさと 小林 一樹 原 正悟